

## 「インターネットで情報の発信を」

阿部 雅俊 (国際経済)

最近の学生が提出するレポートを読んでいて、驚かされることがよくある。インターネットの検索を利用して、広範囲にわたって資料を調べていることである。

私が学生の時は、レポートの準備といえば、図書館に出向き、多くの本や学術誌に目を通すなど、それこそ数日間図書館に入り浸りするということがよくあったものだ。それが今、家から一歩も出ずに、机上のコンピュータを駆使して、昔では考えられなかったような量の資料を手に入れることができる。

それで思い出すが、私が留学中に会ったインドネシアからの学生である。彼は、米国の東海岸にあるコーネル大学の図書館はインドネシアに関する資料が豊富であるということで、博士論文の準備に、はるばるインドネシアから同大学の図書館を訪ね、そこでひと夏を過ごした。彼が誇らしげに見せてくれたのが、数十冊にのぼるノートで、そこには彼が手で写したという資料がびっしりと書き込まれていた。当時はコピー機もまだ少なく、あっても苦学生にはコピー1枚の料金は簡単に捻出できるものではなかった。

それにつけて思い出されるのが、8世紀の空海らの遣唐使の尽力である。造船・航海術など未熟な当時であって、身の危険もかえりみず、大陸に渡り仏典などを写し、日本に持ち帰った。もちろん写しは手書きである。こうしてみると、この時代の留学僧と1970年代までの留学生の資料収集については、本質的にそれ

ほどの違いはなかったのではないか。

しかし今は違う。コンピュータを中心としたインターネットは、まさに新しい時代をもたらしている。コンピュータを通して、「時間的」そして「空間的」な制約から解放されて、あらゆる資料が簡単に集められる。また世界との対話ができる。

時あたかも21世紀が始まり、グローバル化の嵐が吹き始め、世界の「アメリカ化」が進んでいる。それをもたらしているのは、まさにコンピュータを中心とした情報通信革命である。しかし私たちはグローバル化の嵐のみ込まれるだけで終わってはならない。

インターネットには、二つの方向性がある。インターネットは世界を均一化する力がある一方、個人の力を増大し、多様化をすすめる力もある。容易に世界から情報を入手できるようになった個人は、自ら蓄えた知識をもとに世界を動かせるだけの「力」を手に行っている。インターネットは世界中の個人と個人を必要に応じて瞬時に、かつ直接に結ぶことができ、それにより、個人の間で情報がゆきかう「新しい世界」が生まれている。

私たちは、自分の意思を世界に発信することを忘れてはならない。今求められている20世紀の文明・価値観に代わる新しい文明・価値観とは、まさにこのネットワークの世界から生まれるものであろう。空海らの留学僧が今生きていたら、何を世界に向けて発信していただろうか。

### — 目 次 —

インターネットで情報の発信を .....	1
<b>〈特集〉レファレンスサービス</b>	
情報化時代のレファレンスサービス .....	2
レファレンス・ポータルサイト .....	3
レファレンスQ&A .....	4・5
レファレンスツールとしてのWeb版データベース案内 .....	6・7
お知らせ .....	8

〈特集〉

# レファレンスサービス

レファレンスサービスとは利用者が調べたい事項や資料の所蔵の調査や提供を援助するもので、資料の閲覧、貸出と並び図書館の中核をなすサービスです。今回は具体的なレファレンス事例やツールの利用法を紹介しながら、レファレンスサービスの活用法や展望を特集します。

## 情報化時代のレファレンスサービス～現状と活用法～

### ●レファレンスサービスの種類と利用法

レファレンスサービスには、主に求めたい資料の所蔵の有無及び所蔵機関を調査する所蔵調査と、調べたい事項について、手順や調査資料の紹介、記述資料の提供を援助する事項調査があります。図書館ではこの調査をレファレンス（参考調査）といい、利用者へ回答を提供するサービスをレファレンスサービス（参考業務）と呼んでいます。参考調査は二次資料（資料を検索するための資料）を用いて行いますが、前者では主に各機関の所蔵目録を、後者では辞典類や論文記事索引等のツール（二次資料）を用いて回答を導きます。また、調査の手順や方法、図書館の利用の仕方、資料の配架場所の案内といった利用指導（案内）や、参考調査の結果、他機関から文献複写を取り寄せたり、現物の貸借を行い一次資料（原報）を入手することもレファレンスの一環のサービスといえます。図書館利用の不明な点は気軽にレファレンスオーダーを行って下さい。

### ●インターネットツールの発達とレファレンスサービス

レファレンスツールとなる二次資料は、利用者自身でも調査が行えるよう開架資料として提供しています。また、最近のインターネットの発達により、様々な情報ツールが手軽に利用できるようになりました。現在では殆どの機関が自館のホームページに蔵書目録（OPAC）を公開していますし、複数の機関のOPACを一度に検索出来る横断検索や、論文記事を検索するためのデータベース、検索エンジン（サイト検索のためのサイト）等も多数存在し、利用者は図書館へ来館することなく何時何処でも研究調査が可能となりました。更に、各機関での所蔵資料の電子化も進められており、二次資料のみならずこれまで閲覧が困難だった一次資料（原報）もインターネット上で手軽に入手できるようになってきています。

こうした情報資源の爆発的進化は我々に次々と便利なツールを提供してくれますが、現状では未だ留意すべき点もあります。例えば、国内の専門図書館の所蔵調査として最も利用されているものにNACSIS Webcatがありますが、図書所蔵情報については私立大学図書館の多くが未だ登録されていないのが現状です。また、各館のOPACについても所蔵資料の全てが検索可能というわけではありません。各機関でのデータベ

スは構築過程、若しくは所蔵年次を限ったデータ提供を行っているところもあり、古い資料や貴重書等は紙媒体の目録で補完を必要とする場合もあります。これは海外の図書館でも同様で、当館で導入しているWeb版ドキュメントデリバリーサービスのBritish Library Insidewebについても検索可能なデータは逐次刊行物の一部に限定されています。インターネットで所蔵調査を行う場合は各機関がオンラインで提供しているデータの範囲に留意する必要があります。また、検索方法の相違も意外な落とし穴がある場合があります。キーワードの入力方法は勿論のこと、例えば、「こども」というキーワードの場合、「子ども」「子供」「こども」と表記が一樣でなかったり、また、水無月の読みが「ミナヅキ」「ミナズキ」、「芥川龍之介」と「芥川竜之介」などの表記の“揺らぎ”によって在るべき情報に行き着かない場合もあります。その他、オンライン検索の不便なところとして一覧性に乏しい点が挙げられます。タイトルが略称で表記されている雑誌の検索などは、オンラインより冊子目録での検索のほうが利便な場合もあります。オンライン検索は便利なツールではありますが、完全ではないことを念頭に利用することが大切です。最新のツールと従来の紙媒体のツールを上手に組み合わせて調査を行うことが的確な回答を得るのに必要といえます。

また、インターネットでは直接論文や記事を得ることも可能となり便利になった反面、その信頼性を評価することも必要となっています。更に、インターネット情報についても紙媒体同様、著作権が存在していることも認識しておく必要があります。こうした新技術の利用法なども今後のレファレンスの重要なサービスのひとつといえます。調査の過程で思うような結果が得られなかった時にも図書館でのレファレンスサービスを是非利用して下さい。

### ●レファレンスサービスの新しい形

前段ではインターネット利用の留意点についてを述べましたが、情報提供の形は日々進化しており、その速報性、利便性からも益々有効な手段であることは言うまでもありません。また、データベースによっては従来の紙媒体の二次資料を廃止してオンラインのみの提供に切り替えるものもあり、インターネットの利用

## 〈特集〉レファレンスサービス

は今後の情報収集には不可欠なツールとなってきています。こうした情報の充実とともにレファレンスサービスの形態も変化しつつあります。E-mail を利用したレファレンスの質問、回答の連絡は当館でも既に行っていますが、蓄積してきた質問内容を Web 上で Q & A として公開したり、また、一部の大学では質問内容をデータベース化した検索エンジン型のオンラインレファレンスインターフェイスの開発も進められています。更に横断検索を始めとする複数機関の連携によるネット上での情報資源の共有や、機関の垣根を無くした所蔵資料の利用といったコンソーシアムの取り組みも始まっています。こうした機関の協力体制による利

用者サービスは欧米では既に確立されていますが、わが国でも次代の図書館サービスでは一般的な利用法となるでしょう。

留まるところのない情報進化のなか、図書館のレファレンスサービスも単に質問の回答を提供するだけでなく、氾濫する情報源のなかから最も適したデータソースを提供し、その利用方法をガイダンスするなど、情報の水先案内人としての使命へと変容しています。情報化時代のレファレンスサービスは従来のサービスに加えて、こうしたネット情報についての知識や調査方法、情報源の案内やテクニックの援助としても大いに活用していただきたいと思ひます。

## レファレンス・ポータルサイト

インターネットブラウザを立ち上げた時に最初に表示させる画面のことをポータル（入り口）のサイトといいます。ここではレファレンスの参考となる「レファレンス・ポータルサイト」を紹介します。

### 【蔵書検索・資料データベース】

図書館蔵書横断検索 (JCROSS)

<http://www.jcross.com/bibcrs/bibcrs2mnu.html/>

国内の大学、短大、専門図書館 194 館の OPAC の横断検索ができます。

中国古典籍データベース (新潟大学)

<http://hyena.hle.niigata-u.ac.jp/files/dbase.html/>

中国古典籍がテキストデータベースで提供されています。

Serials and Newspapers in Microform (UMI)

<http://www.il.proquest.com/hp/Features/SIM-NIM/?/>

UMI の雑誌、新聞マイクロフィルム資料の検索ができます。

### 【学位論文検索】

ProQuest Digital Dissertation

<http://www.wlib.umi.com/dissertations/gateway/>

最近 1 年間の学位論文の書誌と抄録が検索できます。

MIT Theses Online MIT

<http://theses.mit.edu/>

MIT の 1896 年からの学位論文が検索できます。

Linguist Dissertation Abstracts

<http://www.emich.edu/linguist/dissop.html/>

1986 年以降の言語学関係学位論文の書誌と抄録が検索できます。

### 【雑誌新聞記事検索】

学術雑誌目次速報データベース (国立情報学研究所)

<http://www.nacsis.ac.jp/sokuho/>

国内の大学、短大、専門機関の発行している出版物の目次のデータベースです。

明治・大正・昭和前期雑誌記事索引集成 (皓星社)

<http://www.libro-koseisha.co.jp/>

明治・大正・昭和前期雑誌記事索引集成の総目次と執筆者索引を公開しています。

雑誌新聞記事検索

<http://ask.elibrary.com/>

雑誌、新聞、図書、マスメディアから横断検索ができます。

### 【分野別データベース】

生物・医学 BIOMED

<http://www.biomednet.com/>

医学・健康科学 NewsRX

<http://www.newsr.com/>

家政学 Home Economics Database

<http://www.bib.wau.nl/huisho/>

教育学 Ask ERIC

<http://eric.syr.edu/Eric/>

### 【電子ジャーナル】

記事検索と抄録、一部は全文が利用できるものもあります。

Swets Net

<http://www.swetsnetnavigator.nl/>

全般。約 3,300 誌収録。

HighWire Press

<http://highwire.stanford.edu/>

自然科学。約 72 万記事。16 万記事の全文無料。

Ingenta Journals

<http://www.ingenta.com/TfeHello/>

自然科学。Academic press, Blackwell Science 等約 2,500 誌。

IDEAL

<http://www.ideallibrary.com/>

自然科学。Academic Press, W. B. Saunders, Churchill Livingstone journals 等約 250 誌。

Internet library of Ealy Journals

<http://www.bodley.ox.au.uk/ilej/>

文学。18-19 世紀の英有力 6 誌の記事検索とイメージ。

### 【電子ジャーナルフリートライアル】

有料データベースの中には期間や内容を限定して無料で利用できるものがあります。

JSTOR

<http://www.jstor.org/demo/>

デモ誌 3 誌を初号からイメージで利用可。

OCLC フリートライアル

<http://www.oclc.org/firstsearch/databases/>

OCLC First Search の中から毎月 1 データベースが利用可。

### 【機関情報】

Academic Society Home Village (国立情報学研究所)

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/>

国内学会へのリンク集です。

首相官邸

<http://www.kantei.go.jp/>

各官庁へリンクしています。

日本の学校

<http://www.gakkou.net/>

全国の高校、短大、大学情報とそのホームページにリンクしています。

College and University Home pages (MIT)

<http://www.mit.edu:8001/people/cdemello/geog.html/>

80 カ国 3000 大学のホームページにリンクしています。

### 【その他】

検索デスク

<http://www.searchdesk.com/>

国内外の各分野の検索エンジンやサイトにリンクしています。

インターネット地図検索サービス (MapFanWeb)

<http://www2.mapfan.com/mfwtop.html/>

エリアや地名、駅名、郵便番号等から検索して周辺地図をみることができます。

〈特集〉

## レファレンス Q&A

実際にカウンターに寄せられた参考質問とその回答を本・分館それぞれのレファレンス担当者より紹介します



2001年4月より表示が義務付けられた『遺伝子組換え食品』について調べています。図書館で、以下の事項の調査方法や所蔵情報を教えて下さい。

- ①『遺伝子組換え食品』の開発理由や現在の状況等が書かれている内容の図書が所蔵されていますか。
- ②『遺伝子組換え食品』について、Webで情報を入手したい。情報が入手できるホームページを教えてください。
- ③国内で発生した『遺伝子組換え食品』の事件が書かれた新聞記事が欲しい。



『遺伝子組換え食品』この言葉は、私たちの日常において比較的耳慣れた言葉になりつつあります。私たちの国では、2001年4月より安全性が確認された『遺伝子組換え食品』に対し、表示が義務づけられ、言葉だけでなく食品自体も私たちの日常生活に浸透しつつあるようです。しかし、実際のところ、私たちは『遺伝子組換え食品』をきちんと理解している訳ではありません。今回は、比較的参考になりそうな資料や情報ツールを紹介します。

### 〈A-1〉

現在、『遺伝子組換え食品』について書かれた図書は数多く出版されています。図書館でも、『遺伝子組換え食品』に関連した「遺伝子」・「組換え」という言葉をキーワードにOPAC（利用者用端末）を検索したところ数多くの図書が所蔵されていることがわかりました。その中から5冊参考になりそうな図書を紹介します。『ぜひ知っておきたい遺伝子』（日野明寛編著、幸書房1999.7、498.54/144）には、研究開発が人口増加によるものであるといった開発理由や、今後、組換え操作によって出てくる農作物についても一覧表示によって掲載されています。『遺伝子組換え植物の光と影』（山田康之・佐野浩編著、学会出版センター1999.9、498.54/137）には、既に商品化されている食品や日本国内でも栽培可能な作物を知ることができます。また、世界における栽培面積を知りたいのであれば、『遺伝子組換え食品がわかる本』（村田幸作・清水誠編著 法研2000.6、498.54/140）に、栽培国・栽培面積・日本国内への輸入量までを知ることができます。これ以外に『遺伝子組換え食品—新しい食材の科学—』（日本農芸化学会編2001.6、611/96）や、『遺伝子組換え食品の検証』（藤原邦達著、新評社1997.9、611/630）でも、農学分野的視点から同様のことを調べることができます。その他、自然科学分野における最新情報は学術雑誌での論文発表も多いため、最新の現状を知るには、国内外

の雑誌記事を収集するのほひとつの方法といえます。国内は日本語のキーワードでの検索ですが、国外文庫の場合には、英語での検索となるため、あらかじめキーワードを英語にしておく必要があります。そのため、事前に、『現代用語の基礎知識』などの辞書・事典類を使い、『遺伝子組換え食品』が「Genetically manipulated food」・「Bioengineered food」であることを調べておくことも必要です。雑誌の最新情報を収集する主なツールとしては、国内では雑誌記事索引や科学技術文献速報、国外ではBL Inside Web や Dialog 等が挙げられます。

### 〈A-2〉

現在、Web上において数多くの機関が『遺伝子組換え食品』についての情報を公開しています。政府機関においては、厚生労働省医薬局食品保健部作成による『遺伝子組換え食品ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/topics/idenshi/>）』が公開されています。ここでは、厚生労働省が安全性審査を行った食品のリストを始め、安全性審査の法的義務化など日常の食生活的視点から、また、農林水産省では『バイオテクノロジー—遺伝子組換え技術・クローン技術関連情報（<http://www.maff.go.jp/idenshi.html/>）』を公開するなど農芸化学的視点から『遺伝子組換え食品』についての情報を収集することができます。その他、国内外においても様々な情報が公開されています。

### 〈A-3〉

新聞記事を検索し、内容を詳しく知りたいということから、今回は朝日新聞の新聞記事データベース「DNA」を使い調べることにしました。

検索語に「遺伝子組換え」を選び検索したところ、該当する記事が4件ありました。質問事項には、最新の事件とあったため、2001年6月23日の記事が該当することがわかりました。内容は、大手食品会社ブルボンの製造するスナック菓子に使用していた原料のカナダ産輸入ジャガイモが、遺伝子組換えジャガイモであったという記事です。この中に、今回の事件以外にも、以前にハウス食品についても同様の事件が発生していた事項も書かれていました。この事項については、厚生労働省のホームページでも記事が掲載されていたため、最近の事件を知ることができました。



小学校で来年度からゆとり教育が行われるため学習内容が削減されると聞きました。内容の変更点と、その長短所を調べたい。



「ゆとり教育」で蔵書検索をしたが適当な資料が見つからないとのことでした。このような場合は辞書で用語の意味や背景を確認したり、関連する別の言葉で検索し直すとうまく資料が見つかります。『現代用語の基礎知識』（汐路 039/1/H13、天白 039/2/H13）や『教育小事典』新版（天白 370.3/63）などでゆとり教育について調べてみると、来年度から学校週5日制が完全実施されるのに伴って授業時間・教育内容の削減・改正が行われ、その内容は平成10年度改訂の学習指導要領で発表されていること

## 〈特集〉レファレンスサービス

がわかりました。

学習指導要領とは、文部科学省が小中高校・養護学校の教育内容と課程の要点を示したものです。このような政府発表の文書は官報に掲載されます。官報の記事を検索するには年刊の『官報総索引』（天白 317/38/1～37）を使います。1998年分を調べてみると、新しい学習指導要領は12月14日号に告示されていました。官報は汐路本館に所蔵していますので取り寄せて利用してもらいました。

政府発表の資料は各省庁のホームページからも得られます。多くの白書・統計が公開されており、情報も早く、全文検索やデータのダウンロードができるものもあって大変便利です。学習指導要領も文部科学省ホームページ（<http://www.mext.go.jp/>）で現行のものと新しいものが参照できます。その他、国立等の研究所ホームページでもさまざまなデータベースが公開されています。国立教育政策研究所（<http://www.nier.go.jp/>）の旧国立教育会館情報データベースでは文部行政資料検索ができ、学習指導要領の主な修正点を表にした資料を見つけることができました。

新・旧学習指導要領の文書と主な修正点の表は入手できましたが、もっと具体的に解説された資料が欲しいとのことで改めて蔵書検索を行いました。「学習指導要領」をキーワードに1999年以降に出版された図書を検索すると40冊の該当があり、その中の『新しい教育課程と学習活動の実際（小学校新学習指導要領実践）』（天白 375/980/1～13）では、科目別で変更点についての事例やQ&A、指導要領対照表が付いていますのでこれを紹介しました。

学校・教育問題は、図書・雑誌だけでなく新聞でも大いに取り上げられています。新聞記事から情報を探する場合にもデータベースが有効です。DNA（朝日新聞記事データベース）では1985年以降の朝日新聞と朝日新聞社発行の雑誌を見出しや本文中の単語から検索でき、ほとんどの記事の全文を閲覧することができます。また、『月刊子ども論』（天白所蔵）は子どもや教育問題に関する新聞記事を集めた雑誌で、年齢と項目ごとの索引が付いており、これも新聞記事を検索するのに便利です。

DNAを使って「ゆとり教育」や「学習指導要領」をキーワードに検索したところ、研究者のインタビューや特集記事など、その長短所を述べた多くの記事があり、参考資料として提供しました。



源氏物語の注釈書で、「紹巴抄」と「蜀山抄」の原本を写真でもよいので見たい。また、活字になった資料も欲しい。



写真で原本を見たい場合は複製本を探します。影印本とも呼ばれ、原本となる写本を写真などに撮影して複製した資料で、書き移された文面そのものを見ることができます。また、活字本は翻刻本ともいい、原本の文面を活字に起こして印刷した資料で、見慣れた活字体で作品を読むことができ

す。

古典文学作品など日本の古典籍について調べるにはまず『国書総目録』補訂版（汐路 025/76/1～9、天白 025/74/1～9）を使います。『国書総目録』は、江戸時代末までに国内で成立した古典籍の目録です。書名の50音順で検索し、著者名・成立年・写本・版本の所蔵先などのほか、明治以後に複製本・活字本として出版された書誌情報が掲載されています。

『国書総目録』で「紹巴抄」を引くと、「源氏物語抄」を参照するように書かれています。そこで「源氏物語抄」を見ると、別称として「紹巴抄」が挙げられています。古典の作品名は別称が多く、読み方も難しいものです。書名の読みがわからないときは『日本古典文学大辞典』（汐路 910/298/1～6、天白 910/287/1～6）や『国書解題』増訂版（汐路 025/29/1～2）の索引などで調べることができます。

次に「蜀山抄」を引きましたが見当たりません。著者が通説で太田南畝といわれているため、『国書総目録』の著者別索引で調べ直します。「源氏物語蜀山抄」として記載があり、活字本として『未刊国文古註積大系』11巻に収録されていることがわかりました。当館のOPACを検索したところ所蔵がありましたので（天白 910.8/21/11）、こちらを提供しました。

しかし「紹巴抄」の複製・活字本、「蜀山抄」の複製本については記述がありませんでした。『国書総目録』のデータは1960年までのものですから、それ以降に出版された影印本・翻刻本を探すために『国文学複製翻刻書目総覧』（天白 910/442 [続] 910/164）や『日本古典文学大辞典』を使います。

『国文学複製翻刻書目総覧』で「紹巴抄」を調べると「源氏物語紹巴抄」として記載がありました。資料によって採択されている書名がさまざまですから『国書総目録』を参照したときに別称をメモしておく役立ちます。複製本として『天理図書館善本叢書』43巻、活字本として『翻刻平安文学資料稿』第2期がありました。複製本は当館に所蔵されていましたが（天白 918/153/43）、活字本は所蔵がありませんでしたから、他の大学図書館から借り受けて利用することにしました。「蜀山抄」は活字本の情報のみで、複製本について記載がありません。『日本古典文学大辞典』など他の資料も調べましたが同様です。複製本は刊行されていないものと思われます。

複製本が刊行されていなくても、貴重な古典籍はマイクロフィルムなどで保管されていることがあります。国文学研究資料館では古典籍をマイクロ写真で撮影・収集しており、複写サービスを受けることができます。どの書籍がマイクロ化されているか、複写可能かは『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』縮刷版（天白 910/193/1～22）や国文学研究資料館のホームページ（<http://www.nijl.ac.jp/>）から検索できます。そこで「蜀山抄」を検索すると、高山市郷土館所蔵の写本を撮影した資料があり、複写サービスを受けられることがわかりました。複製本の代わりにこちらを取り寄せて利用することにしました。

〈特集〉

## レファレンスツールとしての Web版データベース案内

### 【情報データベース DNA(Asahi Shinbun Digital News Archives)】

※ DNA は館内 OPAC 端末での利用に限ります。利用の際はカウンターまでお申し出下さい。

#### ■朝日新聞が OPAC で調べることが出来るようになりました

今まで図書館で、新聞記事を探す方法としては、朝日・中日新聞の縮刷版を主に利用し、該当記事を探していました。その他、記事検索データベースとして「日経ニュース・テレコン」を用いる方法もありましたが、このデータベースは有料のうえ朝日新聞の記事は掲載されていませんでした。今回、紹介する情報データベース DNA を使うことによって、今まで縮刷版でしか調べることのできなかった朝日新聞の全文記事が簡単に探し出せるようになりました。

#### ■収録データ

このデータベースは、1984年8月以降の300万件にのぼる記事データベースが収録されています。大きな特徴として、データベースに収録されている記事は、朝日新聞だけでなく朝日新聞社が発行している「AERA」と「週刊朝日」も含まれており、幅広い範囲の記事方法を収集することができます。但し、一部の記事については著作権法から全文記事を見ることのできないものもありますが、これを利用すれば朝日新聞関係の記事は網羅的に集めることが可能です。

#### ■検索方法と便利な機能

- ① 図書館ホームページの「データベース・電子ジャーナル」から入り、「DNA（朝日新聞記事データベース）」を選択します。
- ② 「DNA」のホームページにある「スタート画面」をクリックし検索画面へ移ります。

#### ■シンプル検索

検索語と日付（発行日）の2項目から検索をすることができます。特定テーマの記事を検索する場合に利用すると良い検索メニューです。

##### （1）検索語からの検索

検索後の入力枠が3つあり、枠間は“AND”“OR”“NOT”で検索式を作ることができます。各枠内においても個別に演算式を作ることができますので、検索対象を広げたり絞ったりすることができます。最初検索記事範囲は、「見出しと本文」で指定し件数が多かった場合、「本文」もしくは「見出し」に絞り込んだ方が必要とする記事の選択範囲が広がります。

##### （2）日付からの検索

発行日付の指定方法は、期間指定・1日のみ指定・指定日以前・指定日以降の4通りがあり、あえて指定をしない場合は全ての期間が検索対象となります。

#### ■パワフル検索

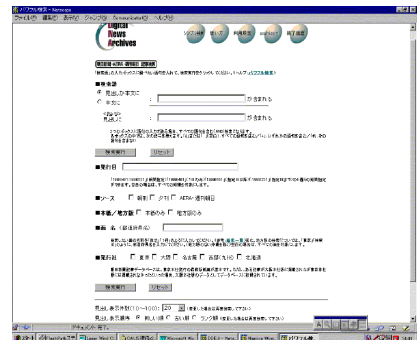
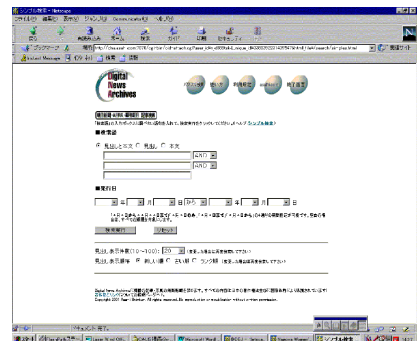
シンプル検索にある検索語・発行日に加え、朝・夕刊・雑誌の掲載ソースや本紙・地方版・発行社など4項目が加わっています。そのため、項目をフルに活用することによって、機能的に検索を行うことができます。記事内容・掲載紙などはっきりとしている場合や検索に手慣れた人向けのメニューでもあります。

##### （1）ソース・本紙／地方版選択ボタン

朝・夕刊や雑誌（AERA・週刊朝日）など特定の誌面検索の指定や、新聞の場合地方版のみの選択も可能です。

##### （2）発行社の選択

東京本社の紙面が基本のデータベースとなっているため、東京紙に掲載されなかった地方版の記事を見ることはできません。しかし、発行社選択ボタンで指定をすることによって大阪・名古屋・西部（九州）・北海道の紙面でしか、掲載されなかった記事も探し出すことができます。新聞の縮刷版は東京本社のデータが掲載されているため、この機能は地方版の掲載記事の検索にとっても有効です。



## 【MLA International Bibliography】

※ MLA は学内端末からの利用に限ります。

## ■ MLA International Bibliography とは

MLA International Bibliography は、文学・言語学・民俗学分野 3000 以上の図書・雑誌・研究報告書などからの書誌索引を収録したデータベースです。収録範囲は 1963 年以降、年 10 回のデータ更新があります。また、付随する MLA Directory of Periodicals では MLA International Bibliography 収録対象誌の書誌情報が検索できます。

## ■ 基本検索

利用は学内からの接続に限ります。ログオンユーザー数が 1 名ですから先に利用者がある場合はその人が利用を終えるまで接続できません。逆に利用を終えるときは必ず「Log Out」ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。アクセスは図書館ホームページの「データベース・電子ジャーナル」から行います。操作マニュアルもこちらから参照できます。「MLA International Bibliography」を選び、データベースにチェックをして「Open Selected Databases」



図 1

をクリックします。基本検索画面(図 1)が現れますので、Find 欄にキーワードを入力し「Start Search」を押すと検索を実行します。

特に指定しなければ全ての検索対象・言語から検索しますが、Find 欄上下の項目をチェックして、検索対象をタイトル・著者・主題から、言語を英語・フランス語などから選択することができます。また「Limit Your Search」をクリックして別画面を開くと、出版年や出版形態などからより詳細に検索対象を絞り込むことができます。項目を指定して画面下の「Set Limits」を押し、検索画面に戻ると設定した制限で検索を行います。この制限は「Clear Limits」を押すか、ログアウトするまで有効です。その他、論理演算子や前方・中間一致検索も可能です。詳しくはマニュアルの「検索式の作成」を参照して下さい。

## ■ 応用検索——Search Builder とシソーラスの利用

キーワードを別の検索対象とかけ合わせたり、雑誌名から検索したい場合は「Search Builder」を利用します。基本検索画面(図 1)で Find 欄右の「Search Builder」をクリックすると新たに検索画面(図 2)が現れます。キーワード入力欄が 2 つあり、それぞれ検索対象を雑誌名等の情報源(SO)、統制語(DE)など一覧から選択できます。

データベースではレコード中で使用されている用語のゆらぎを統制するためのシソーラス(統制語の用語集)を含んでおり、これを利用することで、よりの確で漏れないレコードを検索することができます。

検索画面の右側に表示されるツールバーから「Thesaurus」を選び、シソーラス画面(図 3)を開きます。Subject 欄に適当な単語を入力し、「Go Subject」をクリックすると入力した単語に最も近いスペリングのシソーラス用語が一覧で表示されます。

検索したい用語をチェックします。複数選択できますが、この場合検索は OR 演算になります。「Search Checked Subjects」をクリックすると選択した用語だけの、「Explode Checked Subjects」をクリックすると下位語を含めた検索を行います。なお、シソーラス用語の一覧でリンクされている部分をクリックすると、用語の上位語・下位語・関連語とその説明が表示されるので意味を確認することができます。

さらに検索の補助機能として、ツールバーの「Suggest」ではキーワードの関連語を検索して一覧できますし、「Index」では入力した単語に最も近いスペリングで始まる用語をリスト表示します。

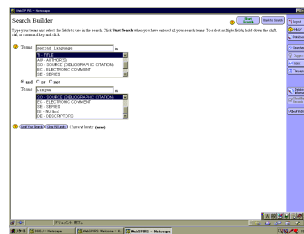


図 2

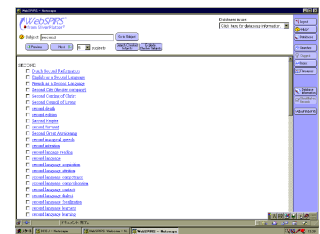


図 3

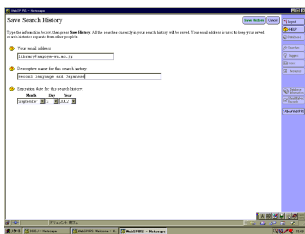


図 4

## ■ 検索式の再利用

同じテーマの論文を継続して集めたい場合、検索式を保存して利用すると便利です。検索式を実行した後で「Save History」をクリックすると Save Search History 画面(図 4)が表示されます。誰が作成した式かを判別するために自分のメールアドレスを入力して下さい。続いて検索式の名称と保存期間を指定します。画面下の「Save History」を押すと検索式が保存されます。次にデータベースにアクセスした際、検索画面で「Load History」をクリック、メールアドレスを入力し OK ボタンを押します。利用したい式を選択し「Load」をクリックすると検索を実行します。

## ■ 検索結果の表示・保存

検索を実行すると結果の一覧が表示され、更に「View Complete Record」をクリックするとレコードの詳細が確認できます。レコードは印刷、フロッピーディスクへの保存ができますが、メールでの送信も可能ですから研究室や自宅の端末で再利用でき便利です。検索結果画面上の「E-mail」をクリックし Email Records 画面(図 5)を表示します。メールアドレス、件名を入力し、送信したいレコードを指定します。必要な項目や形式を選び、「Mail Records」を押すと送信を実行します。

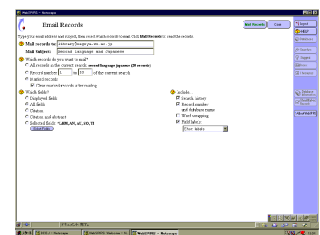


図 5

# — お知らせ —

## 新規購読雑誌紹介

平成 13 年度より以下の 17 誌を新たに購入しています。

	刊行頻度	
おそい はやい ひくい たかい	年 4 刊	天白
月刊福祉		汐路・天白
源氏研究	年 刊	天白
	月 刊	
社会福祉研究	年 3 回	汐路
社会保障		汐路
生命倫理	年 刊	天白
	週 刊	
障害者問題研究	季 刊	汐路
生活と福祉		汐路
	隔月刊	
	年 刊	
	月 刊	
	月 刊	
	季 刊	
	季 刊	
	年 7 刊	



## Web 版データベーストライアルのご案内

現在、以下の Web 版データベースのトライアルを行っています。いずれのトライアルも図書館のホームページからリンクしています。利用方法等不明な点はお問い合わせ下さい。

### ①Expand Academic ASAP International

人文科学を中心に社会科学、科学技術等の雑誌記事の検索、及び全文情報（約 1400 タイトル）の利用ができます。検索結果の保存、E-mail 送信も可能です。収録雑誌タイトルの一覧は、<http://www.galegroup.com/>（“Title Lists (online products)” をクリック）若しくはログイン後の画面左側 Title List で確認できます。

### ②Info Custom Database

Gale Group が契約する全文提供雑誌の中の約 250 誌の全文が利用できます。提供雑誌の横断検索や、雑誌を指定したブラウズも可能で、結果の保存、E-mail 送信もできます。収録タイトルはログイン後の画面

To the following journals 右の Browse ボタンから確認できます。

### ③Methodsfinder

生物学、細胞生物学、免疫学、神経生物学、生物物理学、遺伝学、分子生物学、生理学分野の雑誌記事、書籍、会議発表等から実験テクニック、プロトコルの情報源、抄録、全文の検索、利用ができます。

### ④FSTA (Food Science and Technology Abstracts)

1969 年以降の食品科学、栄養学に関する雑誌記事、図書、会議録、特許情報の検索及び抄録が利用できます。

### ⑤Food & Human Nutrition

国連の FAO (国連食糧農業機関) データベースから 1975 年以降の食品科学、栄養学、公衆衛生に関する雑誌記事、会議録、レポート、政府刊行物等約 40 万のデータから検索及び抄録が利用できます。